
SS

むく。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SS

【コード】

N7790M

【作者名】

むく。

【あらすじ】

オリジナルショートSSです。

困ると足元を見る癖がきみにはあったから、

俯いた顔に胸を痛めることしかできなかった。

「顔上げてよ」

やわらかく、やわらかくと気遣いつつ声をかける。

一瞬びくりと身体を震わせて、それでも僕を見ずにきみは泣いた。

やっぱりな、と思う反面、不思議だった。

僕自身、全く悲しくなかったから。

「泣かないで」

覗き込むように身を屈めると、きみはぶんぶんと首を横に振った。

一歩後ずさるのは、顔を見られたくないという意思表示なんだろう。

きみは僕を見ないようにしながら、ないてない、と小さく呟いた。

「ごめんなさい」

既に垂れた頭を更に下げながら、きみはもごもごと言った。

その言葉にどれだけの気持ちがかもっているか、くらい、僕にもわかる。

同時に、どういう意味であるかも理解していた。

「謝らないでよ」

安心させようとして笑って、僕は明るい声色を装った。

悲しくはなかった。けれど、苦しくないわけではなかった。

きみが僕の所為で悩んで、悩んで、困り果てて、ついには泣き出して、

それを考えるたび、胸が痛んで仕方がないのは確かだったから。

だって僕は、ほんとうにきみがすきなんだから。

「僕は平気だから」

一度も染めたことがない、と自慢された漆黒の髪がゆら、とゆれる。躊躇ってるんだろう、と思った。きみは優しいから。

まだ、自分の選択を疑って、迷って、僕に対しての罪悪感と戦っている。

そつと、髪に触れた。頭を撫でるように、手を滑らせて。

「お願いだから泣かないで」

笑ってさえすればいいよ。きみは。それが一番確実な答えだった。

伊達に続けてきた片思いじゃなかった。もう慣れてるんだ。

「楽しかったよ」

きみの呼吸が少しずつ荒くなっていく。僕の鼓動も少しずつ荒くなる。

嘘で固めた人生には不釣り合いな、本心が唇からこぼれる。

「一瞬でも、両想いになれてよかった」

たとえば、それが形だけのものだとしても。

どこかで、この日のことだけを考え続けていたとしても。

「さよなら、」

名残惜しい気分に駆られながら、きみから手をそつと離れた。

今の瞬間から、ぼくたちは過去に縛られる。

もう、自由だった頃には戻れない。

きみは何も言わなかった。最後まで僕を見なかった。それでいい。

それでよかった。僕は帰路に踵を返して歩みを進めた。

背後で君の嗚咽が聴こえ、心臓を握りつぶされたように電流が走る。

今まで大事にしてきたものを打ちのめしたのは、僕だろうか。それともきみだろうか。

やだ、と小さく聴こえた気がした、その刹那だった。背中に優しい感触を受けたのは。

直感できみだと解った。きみしかいなかった。ぬくもりがじよじよに伝わってくる。

「さよならは、やだ、」

途切れ途切れに嗚咽を漏らしながら、きみは僕を抱きしめる。前まで回された手を、僕はそっと握り返す。

「どうしたの、」
混乱していたのは、きつときみも一緒だった。

「わかん、ない、」
布に押し付けられた顔の感触、掠れる声。鼓動が苦しいほど乱れて、僕は唇を噛み締めた。

「けど、」
深呼吸をしながら、含みを込めた接続詞。

「またね、って、いつて、」

それは。

もう、きみを抱きしめるには充分すぎる理由で。

「ねえ、きみはさ」
僕が腕を取り払うのと、きみがやっと僕を見るのとは同時で。

「僕を、どうしたいの」
僕が君を抱きしめるのと、きみがもういっかい泣き出すのは同時だった。

きみの手が背に触れて、
離れて、
触れた。

「
すぎ、」

きみが僕の人生を、鼓動を狂わすには、もう充分すぎた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7790m/>

SS

2010年10月10日04時34分発行